



に耐えることがわかったが現実的でない。実用化するために会社でも自宅でも24時間考え続けた。いよいよタイムリミット

世界で1億本以上も販売されている国産の時計がある。カシオ計算機の「G・SHOCK」だ。開発者は同社羽村技術センターで時計開発一筋の伊部菊雄氏。父親から高校入学とともに贈られた腕時計を人と衝突して壊してしまい、社内で「落としても壊れない時計」を提案し採用された。だが、当時は薄型時計が主流。目立たないように基礎実験を進めるなかで、緩衝剤で包んだ時計を3階のトイレから落とすことを繰り返した。野球のボール大であれば衝撃

## G・SHOCK生みの親 カシオ計算機株式会社 アドバイザー・プランナー 伊部菊雄氏 (66)



という日曜出勤の昼食後の公園で少女がまわりつきをしていた様子を見て「ボールの中に浮いた時計」を思いつく。

G・SHOCKの「G」は重力、Gravity(グラビティ)の頭文字から付けられた。この商品はアイスホッケーのスティックで叩いてもトラックに轢かれても大丈夫というテレビ局の実証実験の結果、アメリカで販売の火がつき、消防士や警察官、スケートボーダーらが次々と購入。日本にはファッション時計として逆輸入されたような格好だ。日米で爆売れすると、生産が追いつかないで商品が店頭に並ばないというほどだった。G・SHOCKは常に最新のテクノロジーを搭載、進化し続け「空の王者」「陸の王者」「海の強者」とも呼ばれる。

伊部氏は新たなニーズ開拓のために世界を回ってスピーチしてきた。「通訳を介さず、その国の母国語で20分ほど話します。アラビア語やクメール語、ミャンマー語など字が読めない国の言語は難しいので家庭教師や翻訳ソフトのお世話になっていきます」と言うほどサービスピ精神旺盛だ。すでに30数か国を訪ねている。国内の小学校にも要望があれば「発明教室」と称して出かけている。山口県内の小学校では伊部氏の話の聞いた全校児童4人のうち2人がメディアの取材に「将来、発明家になりたい」と語ったらしい。

社内の後進には「落としても壊れない時計」といった「10文字以内のキャッチフレーズ、25文字以内の意図」の指導をしている。そんな伊部氏の2035年の夢は、まだ見ぬ宇宙人の友達とG・SHOCKを巡って会話することという。この気宇壮大な夢や遊び心がある限りG・SHOCKは不滅かもしれない。